

「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」
領域開拓プログラム最終評価結果表

課題	学術研究の変容とミスコンダクトについての人文学・社会科学研究
研究テーマ名	責任ある研究・イノベーションのための組織と社会
研究代表者	吉澤剛
所属機関・部局・職	大阪大学・大学院医学系研究科・准教授
研究成果の総合評点：A	
研究成果に係る所見	
<p>本研究は、研究不正防止のために、欧米で登場した「責任ある研究・イノベーション(RRI)」という学際的研究フレームワークを日本でも立ち上げようとするものである。そのための基本的作業として、概念の整理と、関連する諸要因の国内学会等での受容状況に関する基本的なデータ整理に関する研究を行い、おおむね順調に進展したと判断される。生命科学分野を中心とした学協会の綱領について、捏造・改竄・剽窃への認識はあっても、デュアルユース（軍民両用研究）、ハンディキャップ／マイノリティへの配慮、差別禁止への言及が少ないことが判明したことは重要な成果である。また、人文学社会科学分野の研究者との議論も積極的に進められ、山口大学で行われた調査は注目できる。これらの成果は、RRIに関する議論の進展に有益であり、論文公表など一層活発な情報発信が望まれる。「責任あるイノベーションのための仮想機関（VIRI）」に加盟する海外の大学等との連携は今後の課題である。</p>	

※ 「研究成果の総合評点」に対する標語は下記のとおり。

- S. 研究目的に照らして、期待以上の成果があった
- A. 研究目的に照らして、期待どおりの成果があった
- B. 研究目的に照らして、十分ではなかったが一応の成果があった
- C. 研究目的に照らして、十分な成果があったとは言い難い